

げるように手術室を去った私ですが、あまりに時代遅れになってもという思いもあって昨年、旭川医大の麻酔科の先生にお願いして一日手術場にいらさせていただきました。

麻酔薬も変わり、5分ごとに手書きだった麻酔チャートは電子化され隔世の感でしたが、術場の雰囲気はなんとなく体が覚えていて、結構またやれるかも…なんて思っていました。

最近では地域医療研修が必須となり、当院のような診療所にも若い研修医の先生がきます。何を伝えられるのかなあと自問自答しながら、若い時の経験は後で効いてくるかもよって、ちょっと先輩ぶって言うてみたりします。

実際にはもう麻酔はかけられないでしょうが、沖縄で麻酔科医であったことが今の自分のよりどころだと実感します。

麻酔科で最初に私の論文を指導してくださり、可愛がっていただいた湯佐先生も亡くなられました。ご冥福をお祈りいたします。

地域医療再生のための国家的プロジェクトいよいよ始動！

徳田安春

(筑波大学水戸地域医療教育センター 教授)

独立行政法人地域医療機能推進機構（JCHO：ジェイコー）が平成26年4月に正式に発足します。巨大プロジェクトです。そして、昨年からは自分はこの新たに立ち上がる機構の総合診療医養成のための顧問をやらせていただいています。従来の社会保険病院、厚生年金病院、船員保険病院が、平成26年4月にJCHOの病院グループとして新たな組織に生まれ変わるもので全国60もの病院が統合されます。理事長には尾身茂先生（元WHO西太平洋地域事務局事務局長）が就任されました。

JCHOは、全国約60の病院や介護老人保健施設等を拠点として、関係機関と協力しながら、我が国の地域医療の再生に向けた様々な取り組みを推進し、安心して暮らせる地域づくりへの貢献をしていく予定です。今後、我が国は超高齢社会となり、人々は複数の疾患を抱え、身体機能は低下し、認知症も増加するなど、地域住民のニーズは多様化するため、医療・介護・福祉等が切れ目なく連携することが求められています。

JCHOでは、人々が抱える多様なニーズに応える

ため、全国規模のグループとして「急性期医療～回復期リハビリ～介護」を含むシームレスなサービスを提供し、地域医療・地域包括ケアの確保に取り組んでいきます。なかでも、JCHOは総合診療医の養成を中心的なコンセプトとしてこれに積極的に関与し、総合診療医と専門医が協働する地域完結型医療の構築に取り組んでいきます。さらに、特色の異なる病院で構成される全国ネットワークを活用し、地域医療・地域包括ケア連携の「要」となる医療人育成にも力を入れていく予定です。

現職の筑波大学水戸地域医療教育センターでは今後、非常勤として継続してレジデント指導をやっていく予定です。自分のメインの活動としてJCHOの本部がある品川駅に拠点を移し、理事長の尾身先生の顧問としての立場で、教育回診、レクチャー、臨床研究指導など、自分は全国JCHO病院の総合診療科への教育サポートの任をやらせていただく予定です。アライアンス式の総合診療医養成プログラムでは、総合内科専門医、PC学会認定医、病院総合診療認定医、家庭医療専門医などを取得する各プログラムを立ち上げる予定です。まさに Exciting time is approaching! です。

下関の思い出

柴田冬樹

(社会医療法人・栄光病院)

皆さん、お久しぶりです。

私たち二期生が母校を卒業してもう四半世紀になります。振り返ると、蒼き蓄のようだった初春から、盛夏のような成長の二十数年を駆け抜けて、やがて熟成の秋に収穫を見るかのような思いがしますね。いずれも平坦な道のりではなかったでしょうが、しかしその並々ならぬ道程に、忍耐と節制こそ人生の戦いの半分だ！ということをお教えされたのではないのでしょうか。

ともあれ、こうして互いの安否を問い、旧知を温め、語り合える日が来るとするのは嬉しいものです。

現在、私は福岡に帰省し、栄光病院ホスピスで一病棟をあずかっています。いずれは故郷・福岡へ骨を埋めるでしょう。しかし密かに抱く夢があります。いつの日か子供たちが自立したあかつきには、福岡から単身、東北の地へ乗り込み、この余生を東日本大震災被災地の復興のために献身した